

能登半島地震の特徴

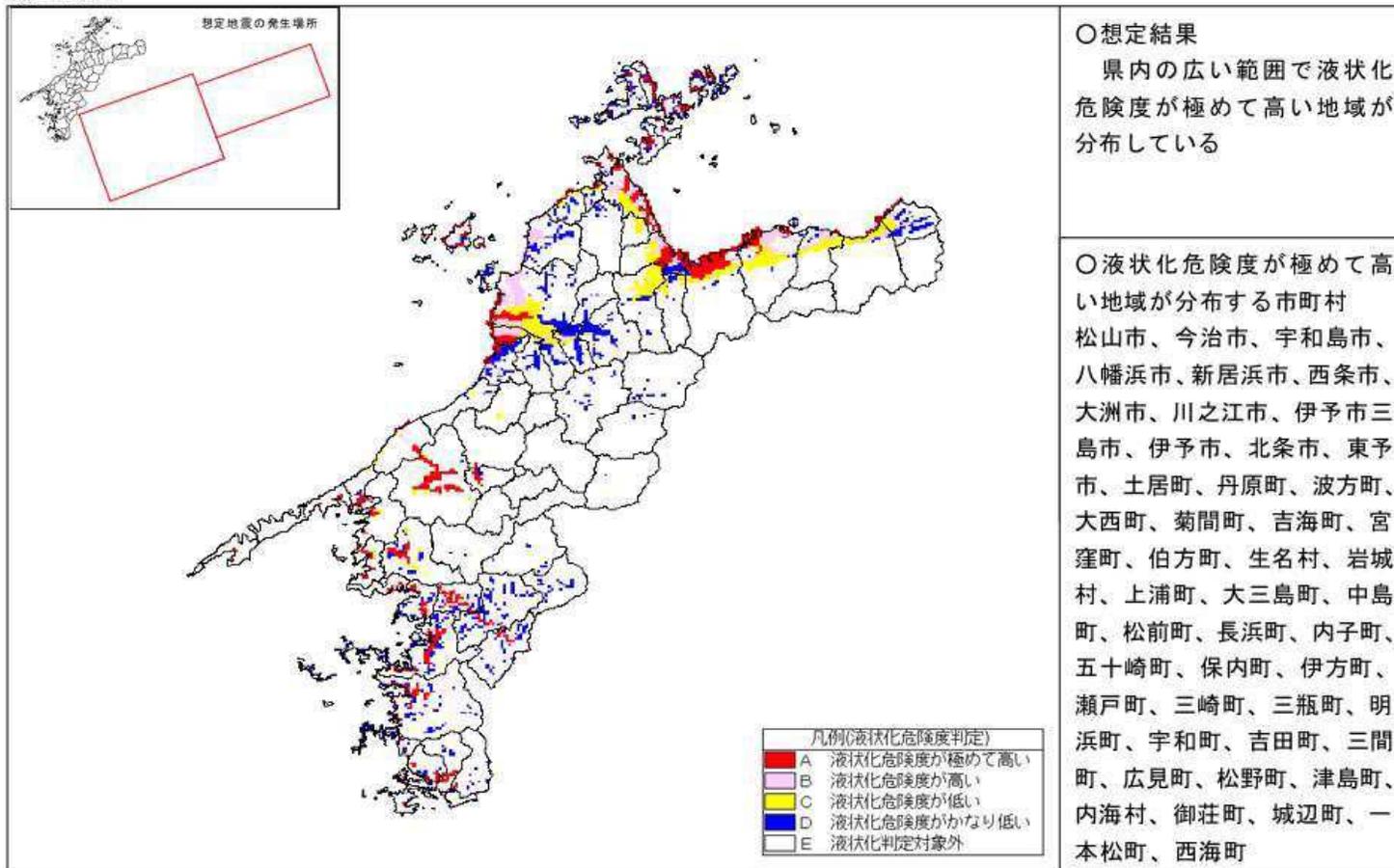
9. 液状化

- ・震源から比較的離れた地域でも被害
- ・内灘町(震度5弱)かほく市(5強)
- ・日本海沿岸の砂地が影響(新潟中越沖地震)

道路・住宅被害が発生

- ・砂丘のすそにあたる砂地盤
- ・地下水の水位が浅い地域
- ・震度5以上の大きな揺れ
- ・新築や建築中の家も被害

想定地震 5

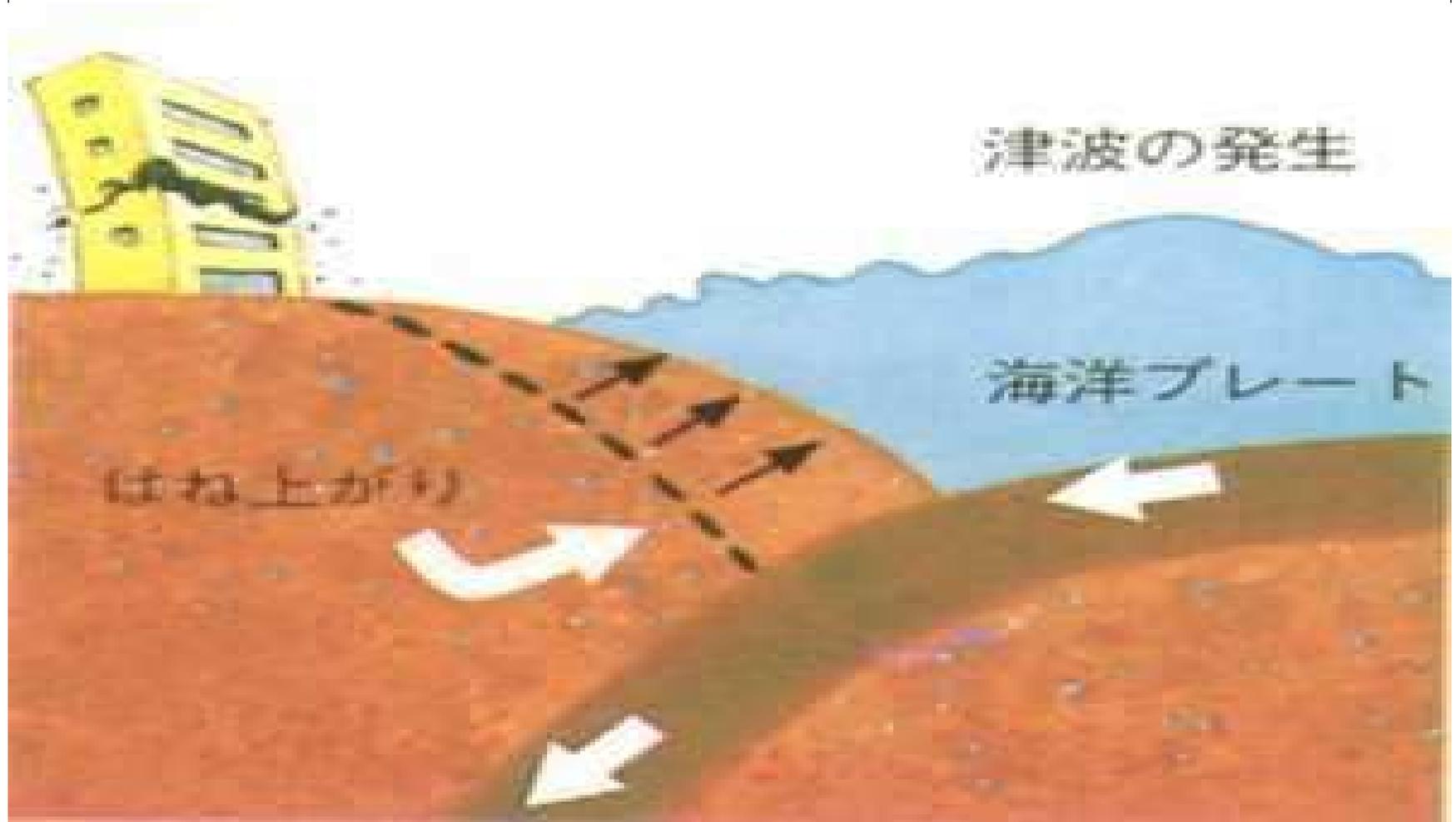


液状化の対応

新潟県中越沖地震や北海道胆振東部地震でも発生。命を落とすような被害ではないが、長期にそこでの生活(仕事)ができなくなる危険。

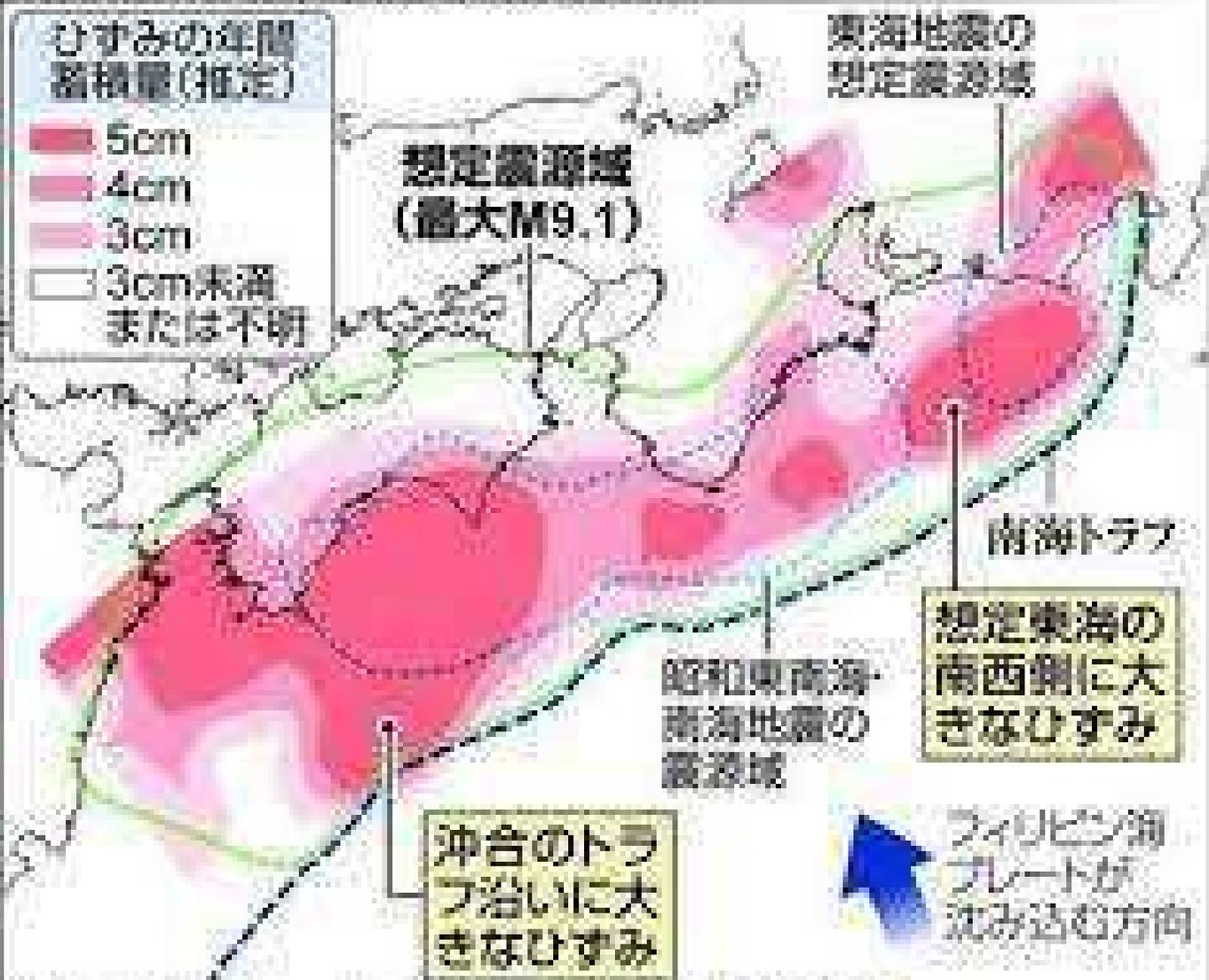
- ・施設が使用できない場合の対応は？
- ・施設間、地域間連携
- ・ハザードマップで確認
- ・地震保険への加入

海溝型地震(南海トラフ地震)のメカニズム



歪が限界に達すると、プレート境界が破壊され、陸側のプレートが、はね上がり、地震が発生する。併せて、海水を押し上げます。

南海トラフ想定震源域のひずみ



※Mはマグニチュード。国土保安庁の資料を基に作成。

愛媛県の被害想定 (南海トラフ地震)

愛媛県地震被害想定調査

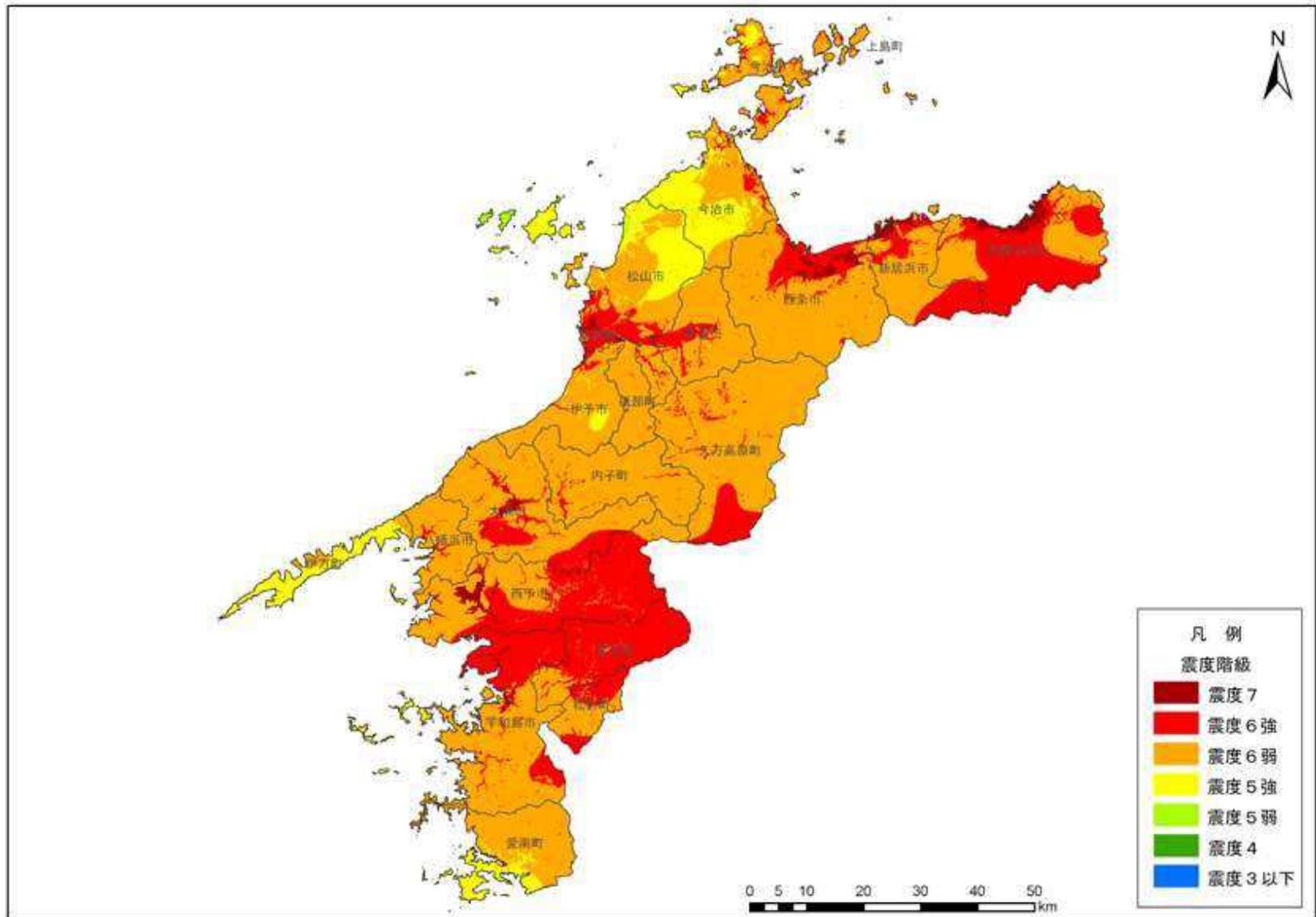


図 2-4-12(2) ①南海トラフ巨大地震 (陸側ケース) の震度分布

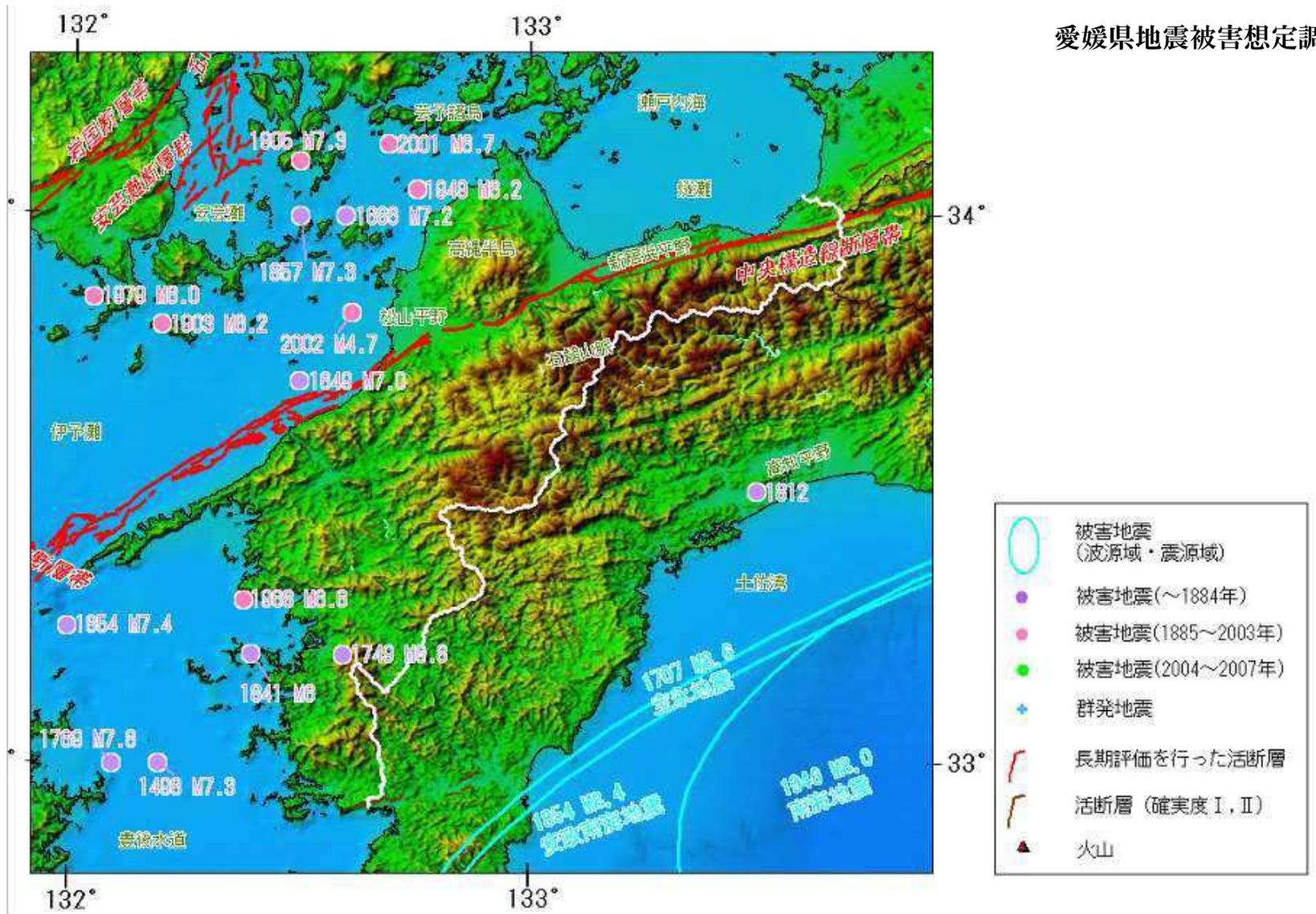


図 2-3-2 愛媛県とその周辺の主な被害地震と活断層

(出典：地震調査研究推進本部ホームページ)

http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/chugoku-shikoku/p38_ehime.htm

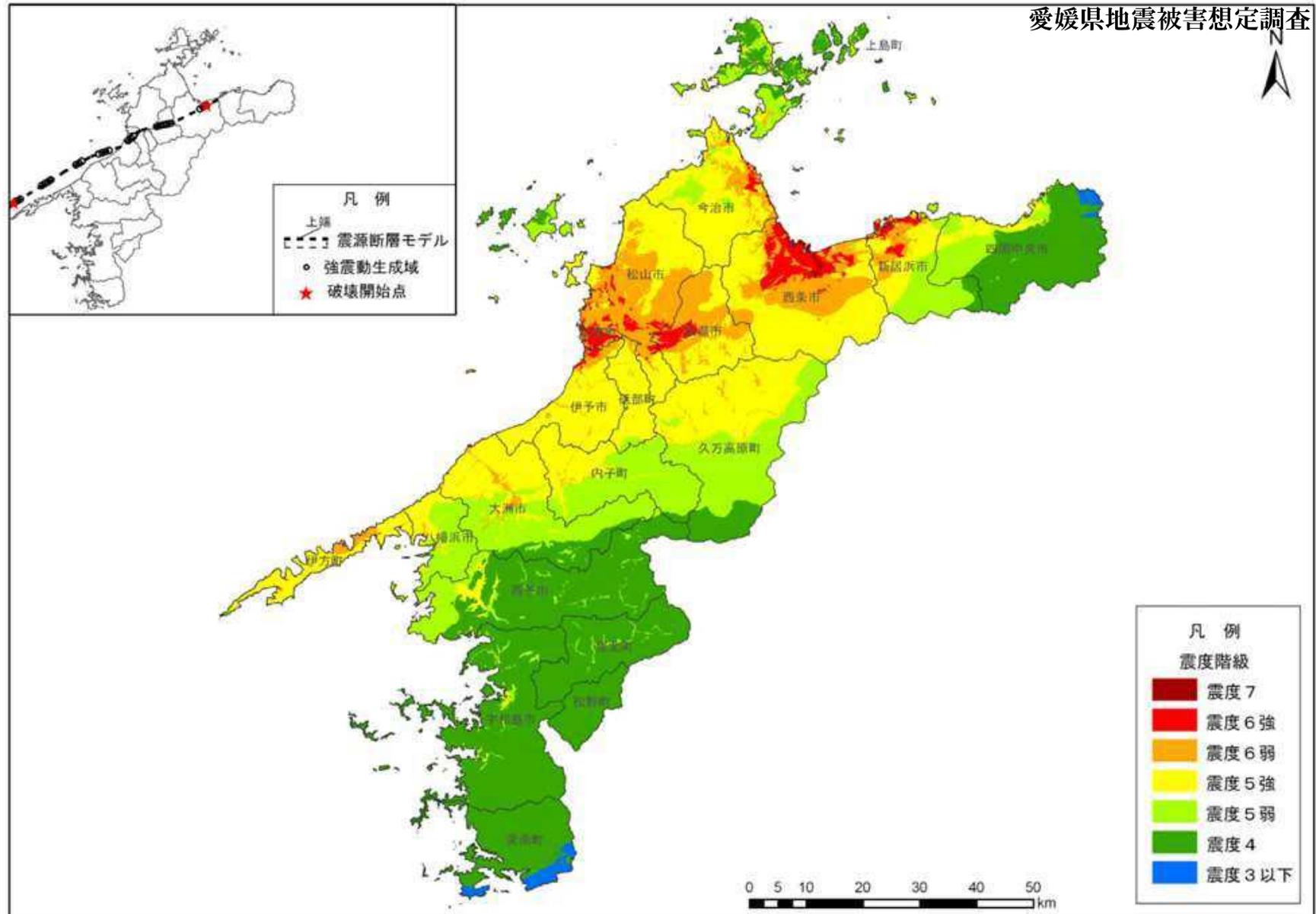


図 2-4-11(6) ⑤石鎚山脈北縁西部－伊予灘の地震の震度分布（2 ケースの重ね合わせ）

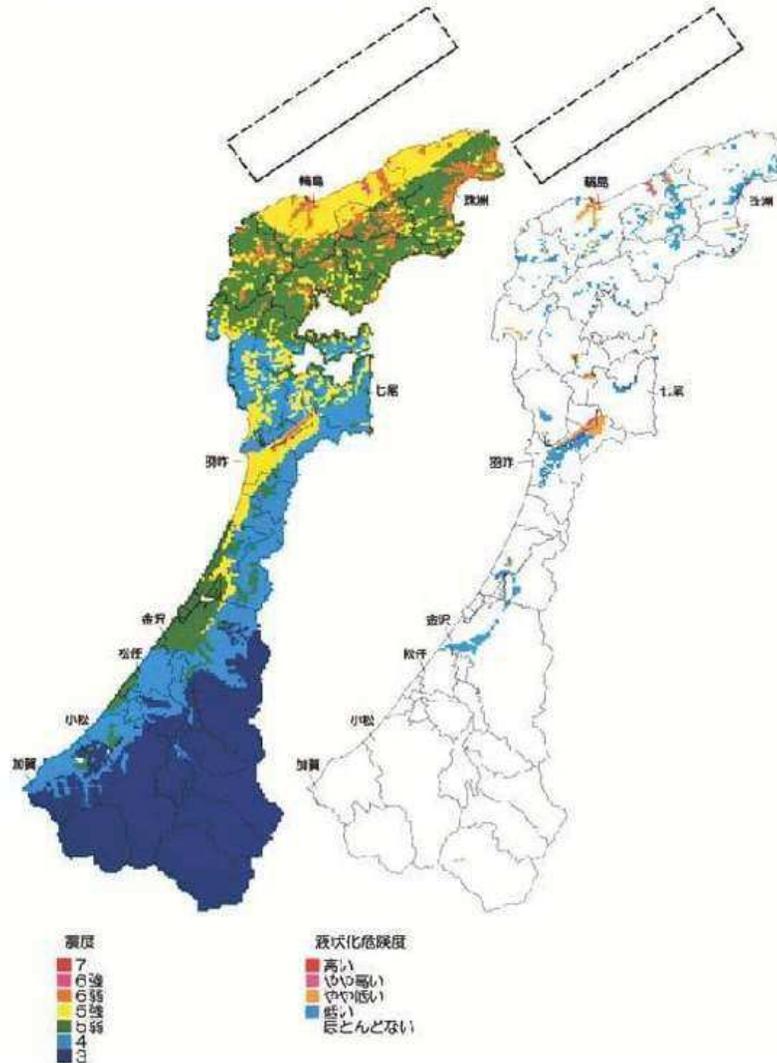
能登半島地震各市町村の最大震度

③各地の震度（震度5強以上）

石川県	震度7	志賀町、輪島市
	震度6強	七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
	震度6弱	中能登町
	震度5強	金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、 宝達志水町
新潟県	震度6弱	長岡市
	震度5強	新潟中央区、新潟南区、新潟西区、新潟西蒲区、三条市、 柏崎市、見附市、燕市、糸魚川市、妙高市、上越市、佐渡市、 南魚沼市、阿賀町、刈羽村
富山県	震度5強	富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村
福井県	震度5強	あわら市

4 能登半島北方沖の地震

(1) 図 想定結果 (能登半島北方沖の地震)



(2) 表 市町別被害予想結果 (能登半島北方沖の地震)

	建物全壊		炎上出火件数	延焼棟数	死者数	負傷者数	要救出者数	避難者数	上水道配水管		
	棟	率 (%)							被害箇所	被害箇所 km	
能登北部	輪島市	115	1.1	4	0	2	79	42	1,085	869	5.2
	珠洲市	1	0.0	0	0	1	63	0	768	255	1.3
	穴水町	1	0.0	0	0	1	13	2	151	85	1.0
	能登町	1	0.0	0	0	1	10	2	134	292	1.2
	小計	118	0.3	4	0	5	165	46	2,138	1,501	2.0
能登中部	七尾市	0	0.0	0	0	0	9	0	129	227	0.4
	羽咋市	0	0.0	0	0	1	11	0	144	238	1.3
	室津志水町	0	0.0	0	0	0	0	0	0	74	0.5
	志賀町	0	0.0	0	0	0	6	0	83	151	1.2
	中能登町	2	0.0	0	0	1	20	4	287	205	1.4
小計	2	0.0	0	0	2	46	4	643	895	0.7	
河北	津幡町	0	0.0	0	0	0	0	0	0	27	0.1
	おほく市	0	0.0	0	0	0	0	0	0	17	0.2
	内灘町	0	0.0	0	0	0	0	0	0	4	0.0
	小計	0	0.0	0	0	0	0	0	0	48	0.1
金沢市	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	11	0.0
加賀北部	白山市	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	野々市市	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	小計	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
加賀南部	小松市	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	加賀市	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	能美市	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	川北町	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
小計	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
計	120	0.6	4	0	7	211	50	2,781	2,455	0.4	

※「全壊」には倒壊建物が含まれます。

石川県被害想定調査

自然災害はいつも想定を上回ってくる

27年前に設定

まとめ

1. まずは自分と家族を守るための備えを

お客さんや家族など周りの人を守るためには、まず自分自身を守り、健康な状態で災害を乗り切らなければなりません。そのためには、それなりの**意識と備えが必要**です。

2. 災害は「突然・想定以上に・誰の前にも」訪れる “まさか” は✕

地震のような突然訪れる自然災害の場合、起こった時がスタートではありません。そこはゴールです。それまでにいかに備えていたか？で結果が決まります。

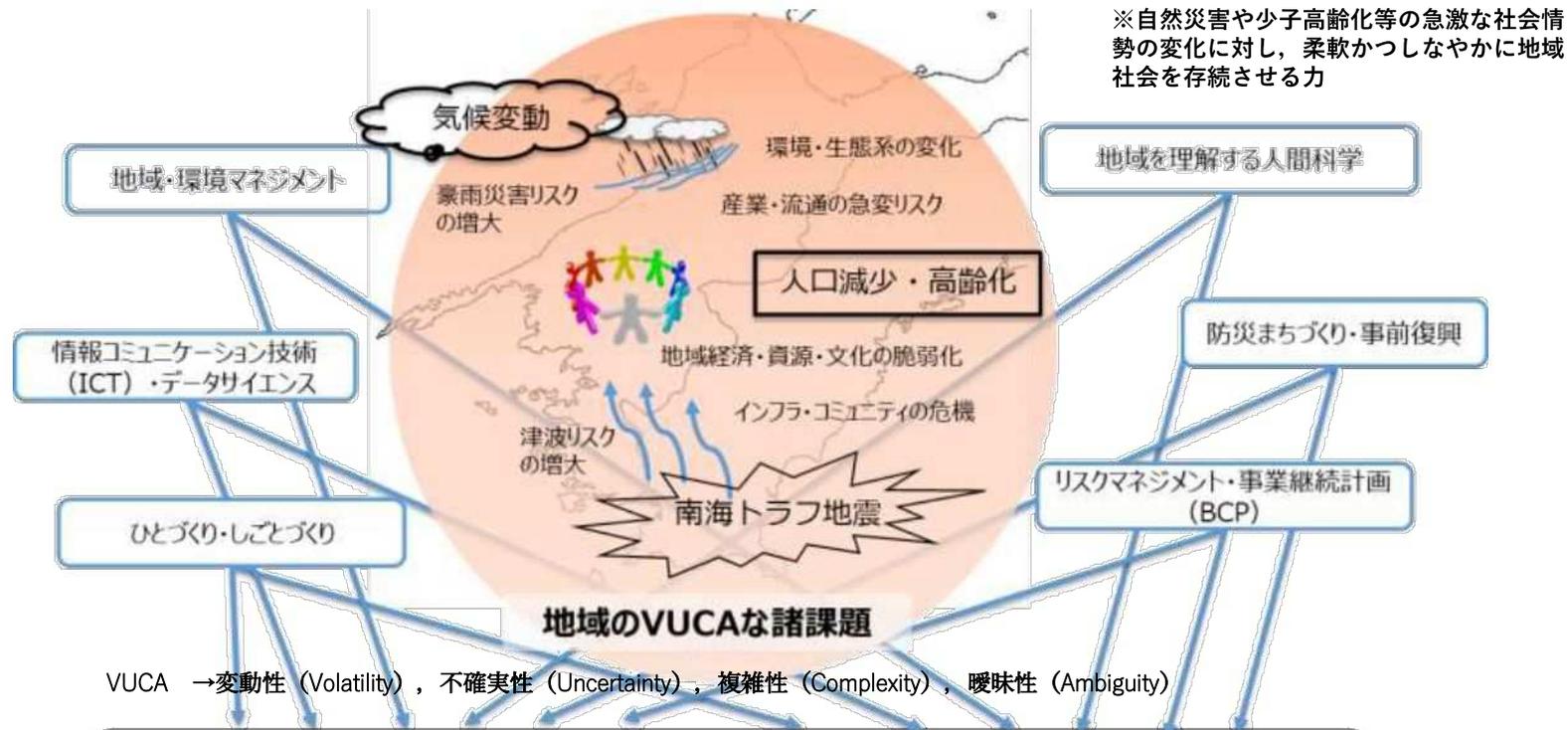
先日の震度6強を観測した地震をみなさんが備えるきっかけに！

※3. 復旧や避難生活への支援はこない

能登半島地震クラスで、驚くほどの復旧の遅さ。支援の遅さが見られる中、能登半島地震の何十、何百、何千倍もの被害が想定されている南海トラフ巨大地震では、西日本が大規模に被災する中で、**長期間、愛媛県への支援はないに等しいと考えなくてはならない。**

一人一人が、家族が、地域が、企業が、まちが、備えていたどうかで、地震後にこの街に生き続けられるか、住み続けられるかが変わってくる。

愛媛大学の教育リソースを結集した 研究科等連係課程（修士課程）を設置し、
「地域レジリエンス※」 向上のための多角的・実践的な学修を可能とする教育プログラムを展開



地域のVUCAな諸課題

VUCA → 変動性 (Volatility) , 不確実性 (Uncertainty) , 複雑性 (Complexity) , 曖昧性 (Ambiguity)

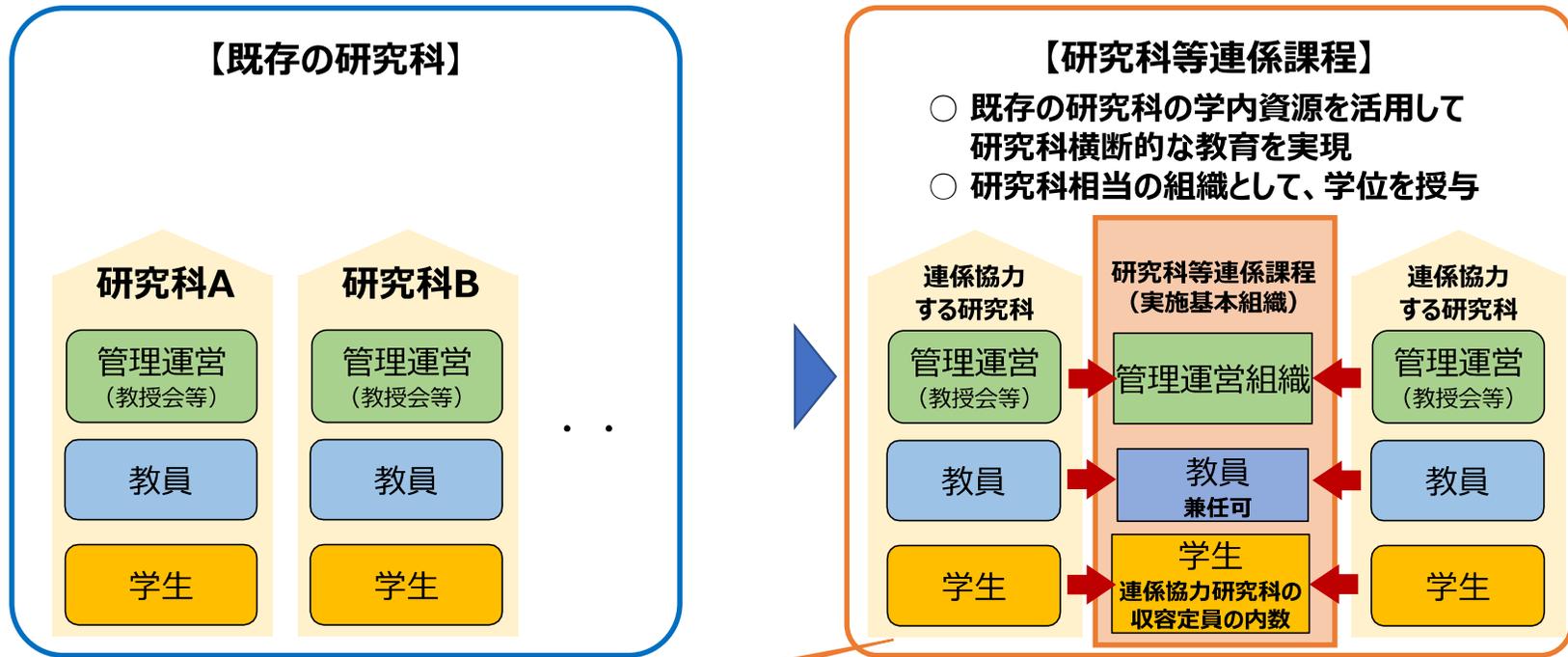
地域レジリエンス学環

【養成する人材像】 ICT・データ利活用及びレジリエンス向上の素養と実践力を身につけ、少子高齢化が進む地域社会において持続可能な地域づくりに貢献できる人材

- 理工学研究科
- 教育学研究科
- 人文社会科学研究科
- 農学研究科
- 医学系研究科

地域協働センター（西条・南予・中予）

学環（がっかん）とは？



本学での組織名称は
学環（がっかん）

複数の研究科がこれまで積み上げてきた教育研究をつなげて新たな学びの『環』を形成しようとするもの

(設置例) 愛媛大学大学院医農融合公衆衛生学環（修士課程）令和4年度開設

分野横断的な教育課程を実施する上で特に必要があり、教育研究に支障がないと認められる場合、複数の学部・研究科との緊密な関係及び協力の下、それらが有する教員組織及び施設設備等の一部を用いて、関係課程実施基本組織を置くことができるものとする。

(大学院設置基準第30条の2 令和元年8月施行)

→ 複数の研究科が、専任教員を兼ねる形で、分野横断型の新たな教育課程を設置できるようになった。

大学院「地域レジリエンス学環」（修士課程）では、愛媛大学の全研究科の関係協力のもと、地域のレジリエンス向上に関わる多角的・実践的な学修を可能とする教育プログラムを実現

地域レジリエンス学環で養う力

地域レジリエンス学環

- 入学定員：6人
- 取得できる学位
修士（学術）

【養成する人材像】ICT・データ利活用及びレジリエンス向上の素養と能力を身につけ、少子高齢化が進む地域社会において持続可能な地域づくりに貢献できる人材

地域レジリエンス学環で養う力

レジリエンスに関する
分野横断的な専門知識・能力

レジリエントで持続可能な地域社会の構築

ICT・データ
利活用力

地域をフィールドにした
協働力・実践力

全研究科の連係による
分野横断型の教育体制

地域のレジリエンス向上に資する
愛媛大学の新たな「教育の柱」
地域のレジリエンス向上に関する学識と能力を選択集中的に学修



◇修了者の活躍イメージ

(例1) 建設コンサルタント会社や地方自治体（技術職）において事前復興の業務に従事し、リスクと地域発属性をデータに基づいて科学的・数量的に評価しつつ、持続可能な防災まちづくりを立案

(例2) 民間企業の危機管理部門において、データ・AIを活用しつつ多様な取引先との協働により柔軟性のあるBCPを策定・実践し、就職先企業のレジリエンス向上に貢献

(例3) 地方自治体（技術職、行政職）や建設コンサルタント会社において、複数のコンピテンスを活かして、環境や福祉などと連携した防災を通して地域参画型のまちづくりの支援および実践を先導

(例4) 地方自治体（農林水産部署）において、農家や水産業従事者のニーズを丁寧に汲み取りながら、ロボットやICTの活用、他業種との連携促進等の支援を通して、自然災害や気候変動に対してしなやかな農水産業の実現に貢献

(例5) 起業家として、地域の魅力の発見、多様な人々との人間関係を深めることができる能力を活かして、地域コミュニティの魅力を最大化しつつ、地域防災力を向上させていく事業を地方において展開

(例6) 行政機関や教育委員会、教育関連企業、NPO等の一員として、地域住民等のステークホルダーとの対話を通して、ICTを駆使した展示物とその活用方法を教育効果の観点から検証・改善し、防災に関する効果的な学習環境を開発

農学研究科 専任教員 5人	理工学研究科 専任教員 9人	人文社会科学研究科 専任教員 5人
医学系研究科 専任教員 3人	教育学研究科 専任教員 3人	

修学者の幅広い専門性や意欲に対応できる全学的な教育体制

協力機関

愛媛大学地域協働センター
（西条・南予・中予）
データサイエンスセンター
防災情報研究センター

自治体・国・民間企業
非常勤講師(調整中)

◇想定する入学者のイメージ

（社会人、大学卒業者）一定の専門性を修得済みであり、これに加えて、持続可能な地域社会の実現に役立つ人材となるために更に学びの幅を広げ、俯瞰力を身につけたいと考えている人物



多角的・実践的な学修を可能とする教育プログラム

○印（赤字）は必修科目

年次	専門科目（13単位以上） 地域理解, ICT・データ利活用, レジリエンス向上のための 分野横断的な専門学識を深化	実践科目（7単位以上） プロジェクト形式により 地域をフィールドにした 協働力, 実践力を涵養	特別研究科目（必修4単位） 研究計画書の作成, 研究計画に 基づいたデータ収集・分析, 研究 論文の執筆・発表について修得	
M2 後期			○特別演習IV	
M2 前期	<p>地域理解</p> <p>ICT・データ利活用</p> <p>レジリエンス向上</p>	<p>学位論文または特定の課題についての研究の成果</p>	<p>○地域レジリエンス PBL III (2単位)</p> <p>○特別演習III</p>	
M1 後期	<p>公共ガバナンス論II</p> <p>○公共ガバナンス論I</p> <p>コミュニティ心理学特論</p>	<p>バイオインフォマティクス 特論</p> <p>災害情報学</p>	<p>国際防災戦略と 危機対応</p> <p>災害医療と 地域包括ケア</p>	<p>地域協働インターンシップII</p> <p>○地域レジリエンス PBL II (2単位)</p> <p>○地域協働 インターンシップ I</p> <p>○特別演習II</p>
M1 前期	<p>環境情報マネジメント</p> <p>環境経済学</p> <p>海域社会論</p> <p>○自然社会環境論</p> <p>人類学特論</p> <p>地域マネジメント論II</p> <p>○地域マネジメント論I</p>	<p>知的食料生産科学 特論 (2単位)</p> <p>○ICT/データサイエンス / AI 特論 (2単位)</p> <p>センシングと応用 (2単位)</p>	<p>災害と福祉法政策</p> <p>リスクコミュニケーション</p> <p>○危機管理と事前復興・事業継続計画</p> <p>○防災・減災工学 (2単位)</p> <p>○地域レジリエンス PBL I (2単位)</p> <p>○特別演習I</p>	<p>○サーベイメソッド・プログラム評価法</p> <p>○デジタルエスノグラフィー実習</p> <p>○データサイエンス概論</p> <p>○レジリエンス学概論</p> <p>○OSDGs概論</p> <p>○プロジェクトマネジメント概論</p>
	<p>○サーベイメソッド・プログラム評価法</p> <p>○デジタルエスノグラフィー実習</p>	<p>○データサイエンス概論</p> <p>○レジリエンス学概論</p> <p>○OSDGs概論</p>	<p>○プロジェクトマネジメント概論</p>	

修了要件：30単位以上を修得することに加え，学位論文または特定の課題についての研究の成果を提出し，審査及び最終試験に合格すること

ファーストペンギンとして やるべきことに全力で取り組みたい

●学環への進学を志した理由を教えてください。

近年、私の周りでリカレント教育に挑戦する人が増え、刺激を受けていたことが背景にあります。また50代でキャリアの総仕上げをしようと考えているなか、学環設置の話を耳にして、「これだ！」と直感。私の勤務する会社が2017年にレジリエンス認証を取得しており、学びの内容も私のニーズに合致しており、運命的なものを感じて入学を志しました。

●仕事との両立の苦労や現在の状況を教えてください。

今はフレックス勤務を活用し、会社の昼休みに授業を受けたり、帰宅後に課題に取り組んだりと時間のやりくりに苦労していますが改めて学生となり、知識が増えていくことに喜びと充実感を得る日々です。実は私は理系が非常に苦手で、学業や仕事でも避けてきた部分がありますが、今は関数やプログラミングなどにも真つ向からぶつかっています。「自分がやりたい」と強く思っただけという体験は、非常に新鮮で楽しいですね。

PBLではテーマにたどり着くまでのプロセスにもたくさんの学びがありました。一緒にチームを組んでいる2名は、ストレートマスターなので

親子のような年齢差ですが、彼らから教えてもらうことも多いです。地域マネジメントに関わる授業は自信がありますが、防災・減災工学やデータサイエンスに関わる部分は若い同級生たちにアドバイスをもらっています。そんな関係性が楽しいですね。

●修了後のビジョンについてお話しください。

周りの理解と協力があって得た機会ですから、修了までしっかりと学びを深めたいと思っています。特に印象に残っているのは森脇先生から教えていただいた「これまで企業はインサイド・アウトの視点でサービスを提供していたが、社会構造が変わった今はアウトサイド・インの視点が必要」ということ。自分自身がそうした考えを実践し、新たな仕組みを生み出したいと思っています。



地域レジリエンス学環1年
(愛媛CATV 取締役)
森 知彦さん

自分自身を大きく成長させてくれた 学環での多様な学びと出会い

●学環進学の動機と 現在の状況を教えてください。

学部生時代、学環が設置されると
いう話を聞いて興味をもったのが
きっかけです。当時からお世話になっ
ていた、社会共創学部の松村暢彦
先生にお話を伺い、「学環に行ってみ
たい」という想いが強くなっていきま
した。一方で就職活動を進めていま
したが、迷いが出てしまっ。振り
返れば自分の大学生活はコロナ禍に
翻弄され、普通の学生生活というもの
を送っていませんでした。幸いなこと
に家族から修士課程進学を応援して
もらえたことから、晴れて学環の一
期生になることができました。

学部時代の同級生はほぼ同年代で
したが、学環では20代から60代まで
が同級生。PBLでは世代の違う
3名でチームを組んでおり、意見が
衝突することもあります。時間を
重ねて、相互理解を深めることで
同年代との交流では得られない学び
を取得しています。

●学環での学びで得たことと 将来の展望は？

現在、学環の学生8名に対して、
関わってくださる教員は30名以上。
とても手厚く指導をしていただいで
います。私は伊予高校時代から防災に

ついて学習しており、社会共創学部
でも地域デザイン・防災コースで
学びました。学環では違う視点で
防災について考えることができいま
す。一例を挙げれば、今、PBLの
テーマとしてハラルフード（イスラム
教の戒律で食べることを許された
食材・料理）が出ているのですが、ダイ
バーシティでは被災時の食事にそう
した意識が必要となっていくます。
そうした視点を与えてくれたのが
学環での多様な学びであり出会い。
森さんをはじめ社会人の同級生の
存在は大きな刺激となっています。

修了後は、学んだことを地元で
ある伊予市双海町に還元したいと
いう思いがありますが、具体的にどの
ように関わることができるのかは
模索中なので、これからの1年半で
見極めていきたいと思っています。



地域レジリエンス学環1年
(愛媛大学社会共創学部 環境デザイン学科卒)

武智 優さん



特集「学環～地域ニーズを踏まえた『新たな分野』での人材育成～」

横断的・複合的な学びにより 身につける実践的な能力

地域は複数の課題を抱えていますが、最大の懸念は少子高齢化であると考えています。今後高齢化率は益々上昇し、地域の人口は大きく減ってしまいますが、人口が減っても地域が抱える課題の数は決して減りません。それに立ち向かっていく人材には、多種多様な知見が求められます。本学環の設置において、5研究科が協力した理由もそこにあります。既存の学問分野を横断的・複合的に学ぶことによって、学生は実践的な能力を身につけられると考えているからです。

学生のパートナーは文系でなくても、理系でもなく問題にはなりません。地域の課題が多種多様であるように、解決するための適切な方法も多種多様。学生たちには在学中に自分の得意とする解決手法を磨いてもらいたいと考えています。そこで本学環で取り入れているのが、PBLです。生徒は少人数のグループを作り、自分たちで地域の課題を見つけて意思決定や情報探索などを協力して行うというものです。教員は、必要段階でファシリテーター（学習支援）を行いながら、学生の自主性をかなり重んじたアクティブラーニングとなつていきます。

（※）PBLは、ペーパー・ベースドまたはプロブレム・ベースド・ラーニングの総称。課題解決型学習。

地域レジリエンス学環



地域レジリエンス学環長 宇野 英満
 プレフィール／京都大学理学部化学科卒業、理学研究科修士課程修了。理学博士。1984年に愛媛大学に専攻し、理学部化学科で修士課程を修了。その後、2009年に愛媛大学工学部理工学研究所教授、2013年に理学部長となる。2015年からは理事、副学長となり、2023年4月より地域レジリエンス学環長に就任。

愛媛大学5研究科の協力のもと、今春設置された地域レジリエンス学環。「地域の課題解決に寄与できる即戦力人材の育成」と考えている宇野学環長に現状や今後の展望についてうかがいました。

社会が抱える喫緊の課題を解決する人材を育てる課程
 今春誕生した愛媛大学大学院地域レジリエンス学環（以下学環）は、医農融合公衆衛生学環に次ぐ2つ目の学環です。「レジリエンス」とは回復力や復元力、再起力などと訳される言葉。近年、地球温暖化を原因として頻発する豪雨災害、遠くからずしと発生すると言われている南海トラフ巨大地震、全国と比較しても急激に進んでいる四国・香根県の少子高齢化など、私たちの周りには喫緊の課題が山積みされています。加えて新型コロナウイルス感染症の流行により、社会や経済の秩序が大きく変化しました。

地域には自然やインフラ、産業、歴史、文化、コミュニティなどたくさんある。社会状況の変化により、自然災害やこれからの可能性が、持続可能な地域社会づくりのために、人と自然、人と社会をつなぎ、住みやすい地域のために野心的な策を打つことが、できる人材が必要不可欠です。そうした状況を踏まえた上で、学環は愛媛大学が持つ資源を結集した新しい形の大学院として誕生しました。その最大の特色は、人文社会科学、研究科、教育研究科、理工学研究科、農学研究科、医学系

研究科の5研究科の協力のもと、分野横断型の新しい教育課程であることです。学部卒業生だけではなく、社会人も積極的に受け入れており、第1期生はストレートマスターと社会人で構成されています。

「レジリエンスの本質は時代に即した手法の構築
 「レジリエンスは回復力という意味を持っていますが、回復は元に戻すこととイコールではありません。例をあげれば、コロナ禍においてオンライン会議や遠隔授業などを取り入れたケースも多いと思います。5類感染症以降後、これらが全て対面に戻ったかといえば、そうではありません。実際、オンラインや遠隔は肉体的負担を削減し、移動の負担や経費もありません。一方でやはり顔と顔を合わせることで、対面を上手に使い分けていくのではないのでしょうか。コロナの以後、非常にインパクトが大きい出来事の後、以前の良い慣習は残しつつも、非常時の経験を生かして新しい慣習をつくりあげています。これこそがレジリエンスの好例です。」



設置記者説明会の様子

社会人も学びやすい！ 学生をサポートする制度

本学環の定員は6名ですが、1期生は8名が学んでいます。現在は3名は愛媛大学の学部を卒業したストレートマスター、2名は社会人で20代から60代までと幅広い年齢層となつています。1期生は意図通りの人材が揃っている状況です。

社会人が多くいる状況で、学びやすさのための修学支援や制度は、でき得る限りのことを行っています。その一つが、職業をもっているなどの事情のある学生を対象とした長期履修学生制度。標準修業年限は2年ですが、当初からこれを超えて3年か4年で修了しようとする学生もいる可能性があります。学費は2年間分を3年、または4年に分けて払えば良いという形に

なつていきます（途中での変更も可能）。加えて夜間開講やオンライン、オンデマンド授業により、仕事との両立もしやすくなっています。

授業料免除や奨学金などの各種制度は、学部生と同様に基準を満たせば利用できます。PBLに際しては発生する交通費などの経費についても、一定額を補助する制度を設けています。「学びたい」という気持ちがあれば、様々なサポートがありますからぜひ挑戦して欲しいですね。

近年、文理融合型の学部は全国でも増えており、本学では2016年にも社会共創学部が設置されました。同時に、四国内では高知大学に地域協働学部が設置され、文理融合型学部は多くの人の知るこころとなり、また、実践的な学びを得た卒業生は公務員、企業人、起業家など幅広い分野で活躍しています。しかし社会が抱えている問題は高度化・複雑化しており、本学では人材育成においてさらに一歩踏み出す必要性を感じていました。その役割を期待されているのが本学環です。

地域とのつながりを活用 学生の学びをサポート

教育課程は「基礎科目」「専門科目」「実践科目」「特別研究科目」の4つの科目群で構成されています。特徴的なカリキュラムでは、「実践科目」「特別研究科目」では、地域をフィールドとして知識力や実践力を

美しい最終的には研究論文へまとめます。本学は県内各地に地域協働センターを設けていますので、地域で研究活動を行う学生を手厚くサポートするのも強み。本学がこれまで培ってきた地域とのつながりも存分に活用させていただいています。

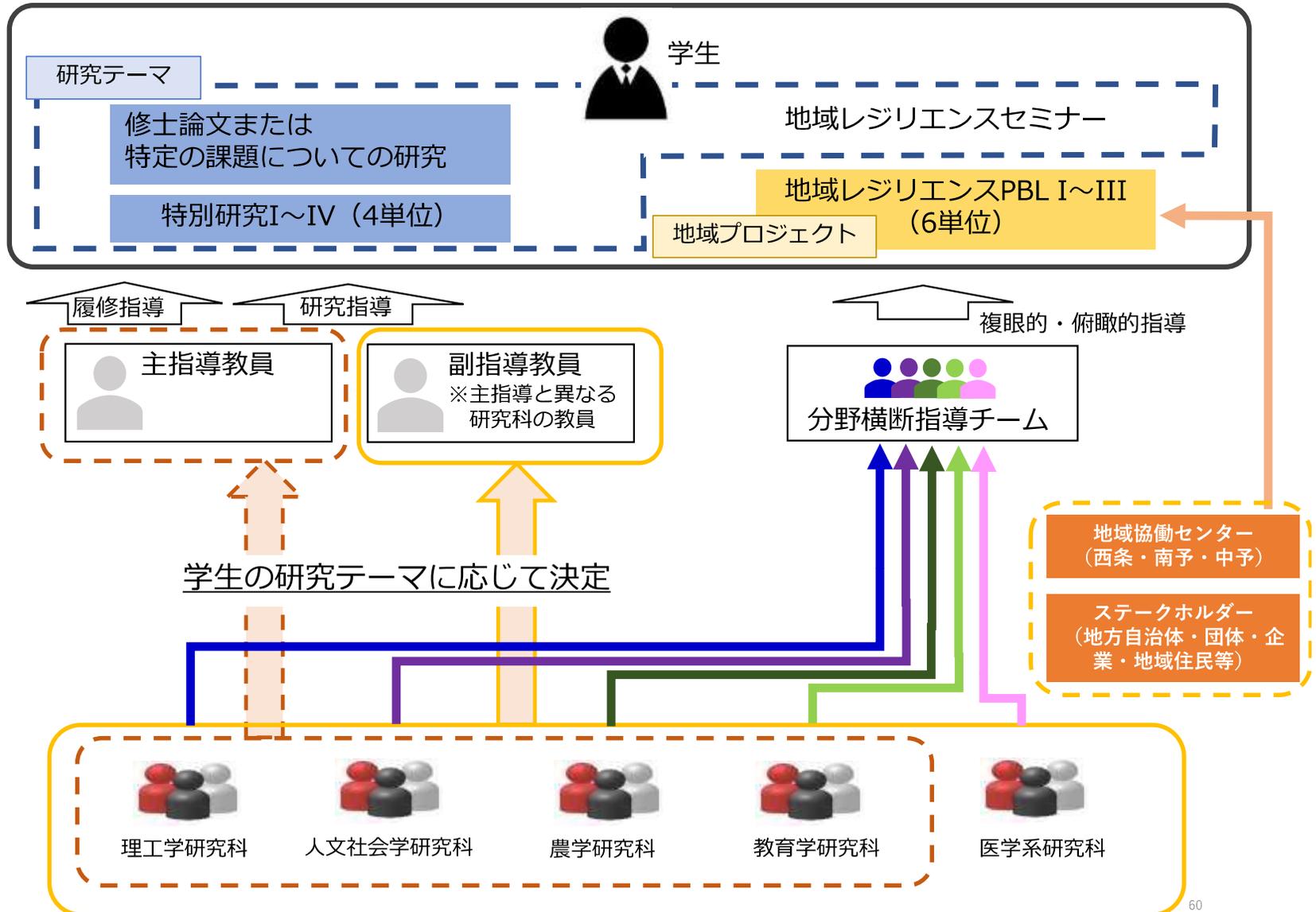
学環の学びのイメージとしては、地域課題研究の基礎研究のようなものから始められ、これはかなり先進的な教育であると自負していますので、学生とともにしっかりと実績を残していきたいですね。

まだスタートして1年も経っていませんが、6月にはシンポジウムを開催し、盛況でした。ありがたいことに、学環には学内の意欲的な先生たちが手を貸してくださっています。教員も学生も、チャレンジ精神をもって学環を盛り立ててくれることに大きな喜びを感じています。



地域レジリエンス学環シンポジウムの様子

手厚い指導体制



どのような方に学んでほしいか？

持続可能な地域社会の実現に役立つ人材となるために学びの幅を広げ、 俯瞰力と実践力を身につけたいと考えている方

社会人

行政職員，民間企業，NGO/NPOの職員，
退職後に地域貢献しようとする一般の方（Iター
ンやUターン人材），政治を志している方

学部卒業者

文系・理系を問わず、自身の専門分野を生かし
て持続可能な地域社会の実現に役立ちたい方



入試情報

募集人員 6名

試験内容 入学後に取り組みたい研究課題のプレゼンテーション，口頭試問を含む面接
以下のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）に合致しているか評価します

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

- AP1：(知識・理解) レジリエンスに関する分野横断的な専門知識を学ぶために必要な基礎学力を有している
- AP2：(思考・判断, 技能・表現) 物事を多面的に考察し，自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる
- AP3：(興味・関心・意欲, 態度) 地域社会の持続可能な発展に強い関心を持ち，本学環で得る専門性をそれに活かしている
- AP4：(主体性・多様性・協働性) 地域社会の持続可能な発展に寄与するための地域プロジェクトを立ち上げ，あるいは参加し，中心的な役割を担おうとしている

入学時に必要な経費は、おおむね下記のとおりです。

入学料282,000円 授業料 年額535,800円

各種、奨学金制度もあります。詳しくはこちら。 <https://www.ehime-u.ac.jp/entrance/scholarship/scholarship/>

1. 長期履修制度

社会人入学者等のうち、申請により許可を得た学生は、標準修業年限(2年)を超えて、一定の期間(3年又は4年)にわたり計画的に履修し、修了することが可能です
なお、この場合の授業料は、例えば3年の履修でも2年分となります

2. リモートや夜間・週末授業

一部の科目ではコンテンツ授業やリモート授業を活用します

また演習科目では社会人学生が参加できるよう、夜間の授業時間(18時から21時)、もしくは土曜日に実施します

3. 「特定の課題についての研究の成果(リサーチペーパー)」

修士論文に代えて、「特定の課題についての研究の成果(以下、リサーチペーパー)」を提出することができます

リサーチペーパーとは、学生が特定の課題を分析し実践的な提案や解決策等を示す研究成果報告書であり、修士論文と同等の審査が行われます

リサーチペーパーを提出できるのは、原則として社会人学生であり、承認を必要とします

防災・減災・事前復興と少子高齢化時代における
地域の持続的発展に貢献できる人材を育成

地域レジリエンス学環

<https://www.rr.ehime-u.ac.jp>



愛媛大学大学院
地域レジリエンス学環

学環紹介 教育課程 支援 各種制度 入試情報 お知らせ

受験情報
サイト

令和7年度入学生募集!!

人文社会科学研究科 教育学研究科

医学系研究科 理工学研究科 農学研究科

愛媛大学5研究科の教育リソースを
集結した新しい形の大学院

お知らせ

- ▶ 2024年04月05日 入試関連 [令和7年度 学生募集要項を発表しました](#)
- ▶ 2024年03月14日 学環ニュース [第2回 地域レジリエンス学環シンポジウムの開催について \(終了いたしました\)](#)
- ▶ 2023年06月07日 お知らせ [第1回 地域レジリエンス学環シンポジウムの開催について \(終了いたしました\)](#)

ご清聴ありがとうございました

能登の一日も早い復興と

地震を教訓にみなさんの備えが
進むことを願っています！



JAPAN PLATFORM 寄付する

決済完了

トピック 2024.07

ご寄付をいただき、誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は、支援が必要な人々の様々なニーズに応える緊急人道支援活動のために大切に活用させていただきます。

ご寄付お申し込み時に領収書が必要と回答いただいた方には、ジャパン・プラットフォーム(JPF)の銀行口座に入金確認後、発行・郵送いたします。領収書の発行までにお時間を頂戴いたしますが、ご了承い